



野球場にフェンスができました

北海道情報大学同窓会

蒼天会 蒼天会報

Vol. 19



発行：2021年12月

北海道情報大学同窓会
「蒼天会」と本学とのネットワーク
強化に向けて

北海道情報大学 学長

西平 順



北海道情報大学同窓会（以下、同窓会）は1993年に設立され、2018年に「蒼天会」と命名し、本学との交流を益々活発にしております。近年、北海道情報大学（以下、本学）の蒼天祭など多くの行事への参画に加え、貴重な寄付活動により本学学生へのサポートを進めており、これらの協力に心から感謝申し上げます。寄付金の恩恵を受けた多くの学生は社会人として歩み出し、現在社会の一員として活躍しています。同窓会からの支援は、学生支援に加え本学運営において大きな力となっております。

大学と同窓生との関係性は卒業するまでにとどまらず、生涯にわたり関わり続けます。いわば、同窓会は本学と同

窓生とを結びつける力強い仕組みであり、双方にとってなくてはならない存在です。本学が同窓生へ寄与できることとして、実社会で同窓生に求められる教育研究キャリアの達成を考えており、そのための継続可能な仕組みを実現することです。この仕組みは、多くの同窓生が必要とする高等教育機関の利点を本学がサポートする取り組みであり、単に知識や技術の習得に留まらず、教育コンテンツを超えた教員と同窓生との交流をも提供するものです。一方通行ではなく、本学と同窓会が協力し形成する共同コミュニティと言えるかもしれません。

この構想を実現するためには、本学の利用の簡便さ、提供できる内容が他の大学にはないユニークなものになければなりません。また、教職員や学生と同窓生が直接コンタクトする機会が設けられていることも必要でしょう。特に、同窓生による学生へのキャリアサービス（メンタリング、スキル向上等）、同窓生との共同作業などは魅力的であり、価値のある交流として評価できるものと考えています。これを実現するための本学の役割として、教育施設の拡充による学びの機会の提供、及び文化・スポーツ活動により、教職員のみならず在学生と同窓生との交流の場を設けることが必要でしょう。

本来、大学と同窓会とは、広く社会生活において有益な関係性を築くことにあります。本学は、同窓生が生涯学習者として本学に戻ることが可能であり、同窓生にとって価値のあるものでなければなりません。本学と同窓会がこれまで以上に関係性を密にし、両者が共に発展するような協力体制が整備されるよう取り組んで参ります。

仕事は楽しく 趣味は真面目に

システム情報学科
平成20年度卒業

中川 隆吾さん



仕事に対して95%の方々は「辛い・やりたくない」といったネガティブな感情を持っているかと思います。

今でこそこの“蒼天会会報”に偉そうに執筆しておりますが、私が在校生の頃はバイト部活パチスロ麻雀酒タバコで単位は足りずギリギリで進級し、3年生からまともに学校へ通い始めた不真面目な落第生でした。当時のゼミの先生や仲間の支えも有りなんとか4年で卒業する事ができましたが、社会に出てからも学生気分が抜けず「仕事へ行きたくない」と毎日考えていました。

しかし転機は26歳に訪れました。いつも通り合コンに動んでいると会場である居酒屋のトイレに貼ってあった“正範語録”と呼ばれる物。それがキッカケとなりました。

「仕事が楽しくないのは本気じゃないから」と考え何事にも本気で取り組み、実績を残し、周囲からの信用を得て、仕事を楽しめるようになり始めました。

その後、現在勤めている会社(有限会社 恒志堂)の代表と出会い4年間育ててくれた会社から転職。現在では入社から8年が経ち従業員数120名の中で部長職となりグループ会社の役員と大層な役職を頂く事となりました。

「辛い思いをしながら頑張る人」では「楽しみながら乗り越える人」には及びません。好きな事となれば知識をどんどん吸収しますが、嫌いな勉強となると全く頭に入って来ません。仕事は楽しむべきなのです。

そして趣味は真面目に。私は写真の通りカーレースを趣味としておりホームコースである十勝スピードウェイの他、富士スピードウェイや鈴鹿サーキットでレースに参戦しております。文字数が足りず

ここでは割愛させていただきますが「KOSHIDO RACING」と検索して頂けると活動報告がありますのでぜひご覧ください。

また、私が旧頃行っている業務としては不動産賃貸業・輸入車ディーラー・ホテル事業を統括する責任者です。各事業の経営及び運営と人材育成が主たる業務になっています。現35歳という年齢であるため部下にあたる方々は年上も多く悩むことも多いですが根っからのポジティブさと仕事を楽しんでいる姿勢を見せる事により周りを巻き込み、引っ張っていくことを意識しています。

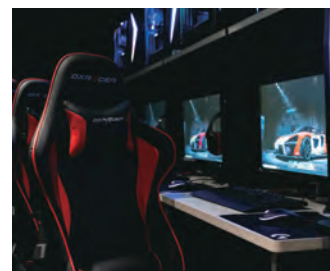
ホテル事業においてはesports特化型ホテル「VILLA KOSHIDO ODORI」を運営しており既に市場規模が拡大しつつある当事業にも取り組んでいます。それを足掛かりに自社Virtual YouTuber(vtuber)「風越星名」も世に産み出し認知度向上を図っている最中です。そしてesports事業ではその流行の先端に必ず乗っていく覚悟です。

元は娯楽のesportsを事業として収益を上げるのは工夫が必要ですが、何より難しいのは優秀な人材の確保だと感じています。

esportsへの関わり方は多々ありますが経営陣がどのような人材を求めているかを理解すると就職活動も有利に進みます。我こそは!という方はぜひ弊社まで。

どうにも説教臭くなってしまいました最後まで読んで頂きありがとうございます。私に関わった皆様が仕事を楽しみ趣味を真面目に取り組んで頂ければと思ひこの言葉とさせていただきます。興味をお持ち頂いた方はいつでもご連絡ください。Twitter・Instagram「@higeryugo」がIDです。

この度は大変貴重な機会をありがとうございます。



新型コロナウイルス感染拡大 に伴う学生への食料支援 (無料配布)について

学生サポートセンター事務室
学生課長

松尾 俊樹さん



2020年、世界では未曾有の大災害と言っても過言ではない新型コロナウイルスによるパンデミックが襲来しました。日本では東京オリンピック・パラリンピック開催年にあたり、期待と希望に満ちあふれる年になることを誰もが想像し、疑う余地はありませんでした。このような事態になることを誰が想像したでしょうか。

教育現場においても例外ではなく、学位記授与式や入学式・宿泊研修・部活動など、学生にとって一生の思い出作りの場や貴重な経験の場など教育活動・文化活動すべてにおいて延期や中止となりました。また、社会全体の経済状況においても大打撃をもたらし、アルバイトで生計の補助を立てていた学生は、シフトの削

減から収入が激減する事態となっています。

北海道情報大学では、そうした厳しい状況下におかれている学生のために、日本学生支援機構からの支援とセイコーマート北海道情報大学店の協力を得て、2021年7月20日(火)から約30日間(実日数)、在学生(学部生・大学院生)にシリアルやレトルトカレーといった食料品の支援(1,600名分の無料配布)を行いました。受け取った学生は「実家からの仕送りが減ったので助かりました。」「すごくうれしいです。」など笑顔で答えてくれました。

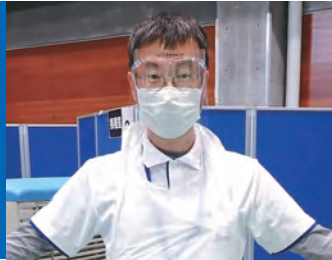
新型コロナウイルスの収束までには様々な困難が想定されます。最大の危機は学校運営変革の最大のチャンスでもあります。危機的な状況下であっても最適な教育環境を整えなくてはなりません。生活環境整備においても同様であり、社会情勢の動向を注視しながら、最大限学生支援に努めて参ります。



新型コロナワクチン 大学拠点接種(職域接種)の 実施について

事務局長

安倍 隆さん



「それは無理!」という言葉をかろうじて堪えた。6月初旬、国が新型コロナワクチンの接種を、企業や大学で独自に実施できる仕組み「職域接種」を公表した際に、西平学長から「本学でも実施できないものか?」と話があったが、これは医療系の学部を持つ大学を想定しての仕組みであり、本学で実施する考えはまったくなかった。

学長は続ける。「これからは変異種がまん延して、若者も感染して、重症化するリスクが高い。学生の命を守るためには接種を急がねばならない。行政が行う集団接種の順番を待っていたら手遅れになる!」と。

「医師でもある学長は、私たちには見えない危機の前兆を感じている。一人の学生もコロナで重症化させないためには、無理は承知でやるしかない!」

その日から、本学の職域接種のプロジェクトが動き出した。

連日学長を中心に関係者で実現方法を探り、国の発表から数日後には、接種実施の申請を、厚生労働省と文部科学省に行った。

そして6月28日(月)、道内大学としては2番目に接種を開始し、

それから3カ月、約4,200人に対して、8,337回の接種を実施した。

本学の学生(一部通信教育部生含む)1,200人に加え、本学の同法人である北海道情報専門学校(HCS)の学生700人、そして江別市内の保育士・幼稚園教諭、小・中学校教職員など1,800人、さらには教職員やその家族、大学の出入り業者など、可能な限り対象者を広げるようにした。

他大学からは、「なぜ情報大で接種を?」という疑問の声も聞かれた。

本学には健康情報科学研究センターという、大規模な臨床試験を行う機関があり、医師や看護師といった「打ち手」が確保できていた。また、膨大な接種予約を管理するために、本学グループ企業の株式会社SCCから、多くの自治体で運用実績があるクラウド型のワクチン接種予約システム「アイ・カラダ」の無償提供を受け、よりスムーズな手続きが実現できた。そして、江別市役所の全面協力、何より、西平学長が全ての接種日に最前線で問診や接種を行う姿に加え、職員の皆が何としても無事に接種を実現して安全・安心なキャンパス環境を取り戻す、という熱意に支えられて、これだけのプロジェクトが完遂できたと思う。

この暑い夏の3カ月間は、学生のために関係者が一体となり、これまでにない形で地域貢献として大きな足跡を残すことができた。改めてすべての関係者に深く感謝申し上げたい。

最後になりますが、「蒼天会」の皆様から「新型コロナウイルス対策支援金」として、寄附金を頂戴しましたこと、深く感謝申し上げます。



西平学長が接種



接種会場(体育館)

「新型コロナウイルス対策支援金」の協力

新型コロナウイルスの感染収束が見えない中、ワクチン接種も進んでおりますが、学生達はまだまだ不自由な学生生活が続いている状態です。

同窓会として、学生達が少しでも早く本来あるべき環境で充実した学生生活を過ごすことが出来るよう「新型コロナウイルス対策支援金」の寄付を行いましたのでご報告いたします。

同窓会は、今後も大学及び同窓生の発展と学生達が充実した学生生活を過ごすことが出来るよう協力を推進していきます。

